

温泉のサイエンス

長島 秀行

(東京理科大・理)

Science of Hot springs

Nagashima Hideyuki

(Science University of Tokyo)

日本は豊富な温泉資源に恵まれているが、一部には過剰な温泉掘削により温泉が枯渇したり、温泉を極端に薄めたり、衛生管理を怠ってレジオネラ症が発症したり、などという事態が起こった。これらの要因には、現行の温泉法等の不備があるので、まず、温泉とは何かについて、つぎに温泉法等の改訂内容についてのべ、病気の予防、リハビリなどに温泉を積極的に活用することを提起した。

Key words: 温泉の定義, 温泉法, 鉱泉分析法指針, 療養泉, 温泉分析書, 日本の温泉地

1. はじめに

温泉は大地からの自然の恵みであり、日本人にとって古くから療養、休養、保養(これを三養という)のため、さらに近年では観光のためと、長い間たいへん親しまれてきた。21世紀に入り、日本はいよいよ高齢化社会を迎えるにあたり、温泉は健康維持、予防医学の観点から改めてその意義が見直されつつある。

日本の温泉地は40年前の約1,500カ所から、現在は3,100カ所へと2倍に増え、年間延べ宿泊者数は、現在、1億2千万人で、全人口の1億2千万人とほぼ同じで、平均すると年間、一人一回は温泉に行き泊まっていることになる。最近では、中国や台湾、韓国などアジアの国々から、また、米国、英国、オーストラリア、カナダなどから年間約1千万人の観光客が訪れ、東京や大阪、京都

ばかりでなく、箱根温泉や草津温泉、別府温泉、登別温泉等に立ち寄り、日本の温泉と温泉文化を楽しんでいる。しかし、宮崎県の温泉施設におけるレジオネラ属菌による集団発症死亡事件(2002年)は大きな社会問題になり、また、水道水を加熱して温泉と称した事件(2003年)や、有名温泉に入浴剤を添加して白濁させた事件(2004年)など、いわゆる温泉偽装問題が起こり、さらに、東京・渋谷の温泉施設(スパ)におけるメタンガス爆発死傷事故(2007年)など、まことに有難くない話題が続いた。これらの問題の根源は、温泉法・温泉の定義の問題や、温泉資源の枯渇、温泉の衛生管理、温泉の情報公開の問題にあるといえよう。今後、自然資源としての温泉を、枯渇しないように保護し、環境との調和を図る必要がある。